

あれ？と思う高齢者に対する

声のかけ方のポイント



- ① ゆっくり近づいて、正面から話しかける
- ② 「こんにちは」「寒いですね」など、普通のあいさつから話し、「どちらへ行かれますか？」と優しく話す
- ③ お話ししてくれるようなら、「何かお困りですか？」
「何かお手伝いしましょうか？」など聞いてみる
- ④ 名前や住所が聞けそうなら、聞いてみてください
- ⑤ その人が認知症の方かよく分らない、または声を掛けることでこちらが不審に思われてしまいそうな場合、
⇒ 「あなたと同じような服装の方が行方不明になったという情報があったので声を掛けたのです」などと言うとよいでしょう



気をつけたいことは・・・

- 大勢で取り囲んだり、腕組みをしたり、厳しい顔をしない（怖がらせない様にしましょう）
- 問いかけにすぐに返事がなくても、せかさずゆっくり待ってみてください。

～『ほっと安心』見守りネットつるおか～への登録のお願い

ご家族が認知症で、徘徊（道に迷い、家に帰れなくなる）などが心配な方へ
鶴岡市徘徊SOSネットワーク事業への事前登録をお勧めします。あらかじめ、徘徊の恐れのある高齢者のデータを警察に登録しておき、いざ「いない！」と気づいたときに、すぐ110番通報することで、すみやかに捜索してもらえる制度です。

申し込みやお問い合わせは地域包括支援センターふじしま78-2370までどうぞ。
詳しく説明いたします。

ふじしまつながり会議にて作成
（地域の方、藤島庁舎市民福祉課、鶴岡市社会福祉協議会藤島福祉センター、地域包括支援センターふじしま）



高齢者の総合相談の窓口です

包括ふじしま

地域包括支援センターふじしま便り

保存版

平成28年3月1日発行
第13号

鶴岡市藤の花一丁目18番地1
TEL 0235-78-2370

高齢者の行方不明をふせぐために



高齢者が道に迷ったり、自宅に帰れなくなってしまうことがあります。そんなとき、あれ？と気が付いてくれる方がいたら、早く発見することが出来ます。

行方不明になってから時間が経つほど行動範囲が広がり、発見が困難となるため、早期発見・早期保護することが大事になります。

あれ？と思う高齢者を見分ける チェックポイント

- ① 服装はどうか
 - 季節外れの服装をしている（真夏にコート・冬に半袖など）
 - 雨の日に傘もささずに歩いている
- ② 履物はどうか
 - 左右違う靴やスリッパをはいている
 - 何も履いていない（裸足やくつ下のみ）
- ③ 歩き方はどうか
 - 信号を無視して歩いている
 - きょろきょろしながら同じところを歩いている
 - 脇目もふらずに一目散に歩いている感じがする
- ④ 時間や場所はどうか
 - 夜中や早朝に歩いている
 - バス停などに長時間座り込んでいる
 - 路肩や道端に座り込んでいる
 - 田んぼのあぜ道を歩き続ける



上記のような方を見かけたら、「110番」通報をお願いします

仕事中や運転中などですぐに対応できないような時に見かけた場合は、通報いただくだけでも早期保護につながり、事故や行方不明から守ることにつながります。

早めの通報が命を守ります